



学園通信

◆2017年(平成29年)10月20日発行 ◆Vol.3

故きを温ねて、新しきを知る 葵学園のあしあと③

昭和44年4月、帯広源照学園が経営する葵幼稚園と葵南幼稚園には合わせて165人の子どもたちが通っていました。

帯広市内全幼稚園では1999人ですからその割合は8%に過ぎません。その割合が10%台に上ったのは6年後の昭和50年でした。

丸5年かかって165人が251人に増えたのです。この年の市内全園児数は2393人でした。

その後の源照学園は、いわゆる回塊ジュニアと言われた子どもたちのお陰で飛躍的な園児数を数えることになりました。

昭和52年は360人、54年には506人、翌55年は二つの幼稚園に限れば最高の578人の園児数となっています。

ここまで、園児数を中心に葵、葵南幼稚園の歴史を辿ってきましたが、もちろん、園児の数だけでなく源照学園の足跡を語るつもりはありません。

学校法人帯広葵学園
理事長 上野敏郎

昭和45年、葵幼稚園は市内幼稚園では珍しかったパン給食を始められています。幼稚園の給食はまだ普及していませんでした。

お母さんが作ってくれた弁当を持って幼稚園に通うことが当たり前だった時代でした。にも関わらず葵幼稚園がパン給食に踏み出したのは保護者のニーズに應える意味もあったのです。

その頃の日本は、第一次石油ショックや高校進学率は90%を超えています。

子どもの教育費ばかりが要因ではありませんが、徐々に共働き家庭が増えだしたのです。

幼稚園の給食に賛同する親御さんたちは多かったのです。

子どもに必要なことはすべて **児童憲章** の中にあります

児童憲章 第一条

すべての児童は、心身ともに健やかに育ち、その生活を保障される。

All the children are to be born and raised in a physically and mentally sound environment and their life is to be guaranteed.



幼稚園型認定こども園 **帯広の森幼稚園**



幼稚園型認定こども園 **つづきが丘幼稚園**



保育所型認定こども園 **緑陽台保育園**



小規模保育所 **OIZ 青い鳥保育園**



未就学児教室・ベビーダンス教室 **あおいキッズハウス**



県庁支庁支援・児童館等サービス・保育所等訪問支援 **あおいとらプラス**